

御嶽山：今後の防災対策の課題

1. 予測の不確実性
 - － 2014型噴火と2007型噴火を事前に区別できるか？
 - － 長期的な噴火活動の推移をどのように捉えるか？
 - － 直前現象から噴火までの時間は？
 - － 噴火口はいつもいっしょか？
 - － マグマ噴火の前兆は？
2. 情報伝達の問題
 - － 噴火警戒レベルの実力を認識
 - － 自治体の決断が必要
3. 規制区域の縮小
 - － 2km規制までは課題は少ない
 - － その次をどうするか？ レベル2は1km規制で良いのか？
4. 「平常」の災害防止
 - － 普段でも、どこまでを「危険」と言うか？
5. 自然を知ることの重要性
 - － 観光の中で御嶽山の自然を知る
 - － 御嶽火山を知って、観光・登山を楽しむ

水蒸気噴出

火山灰・火山ガス

噴石

火砕流

2014.9.29 photo by Yamaoka



2014噴火



1979噴火



2007噴火
(気象庁撮影)

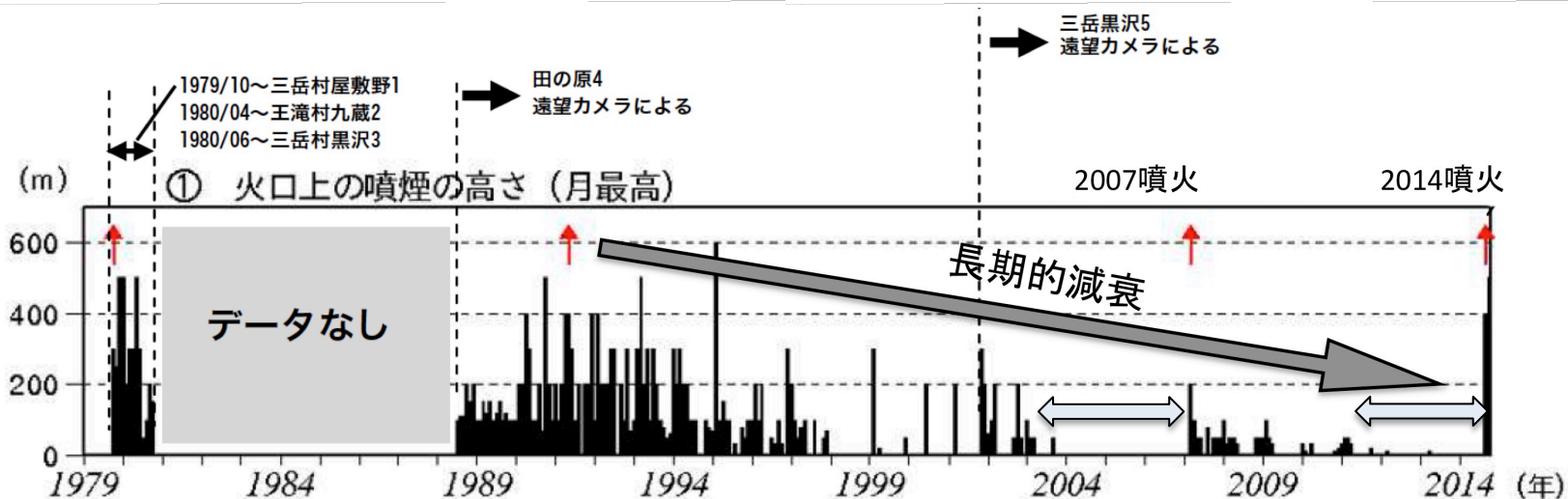
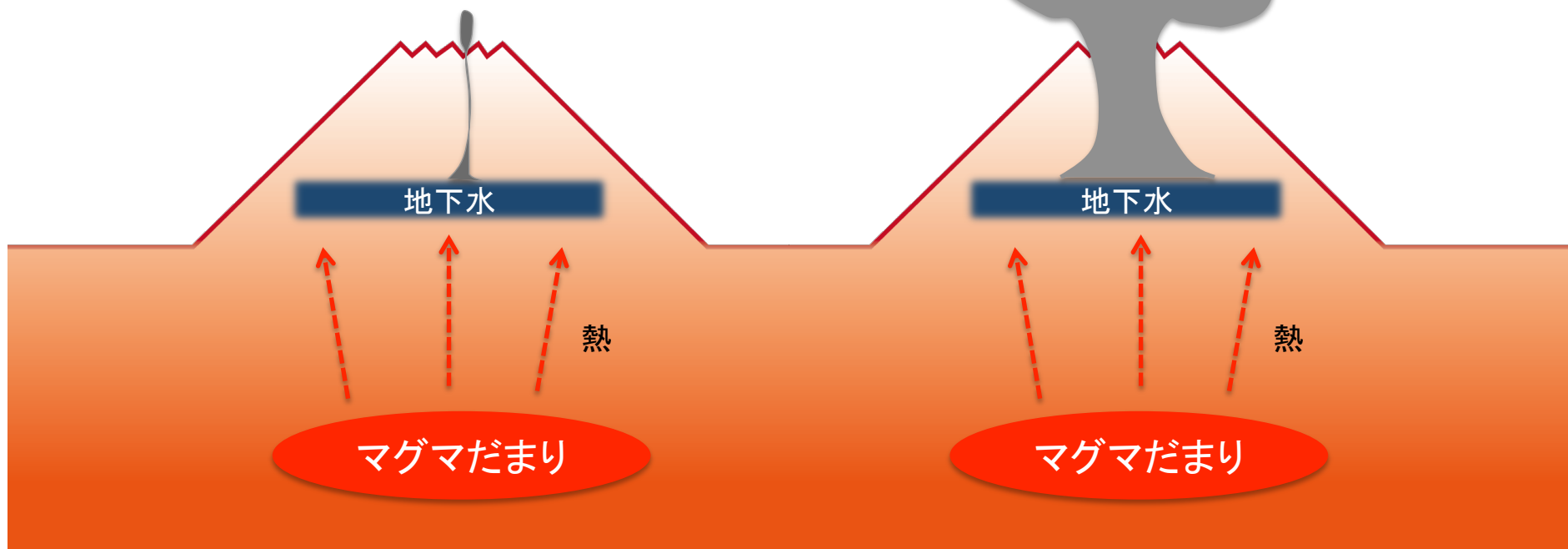


1991,2004噴火

既存の火口から噴出

1979,2014噴火

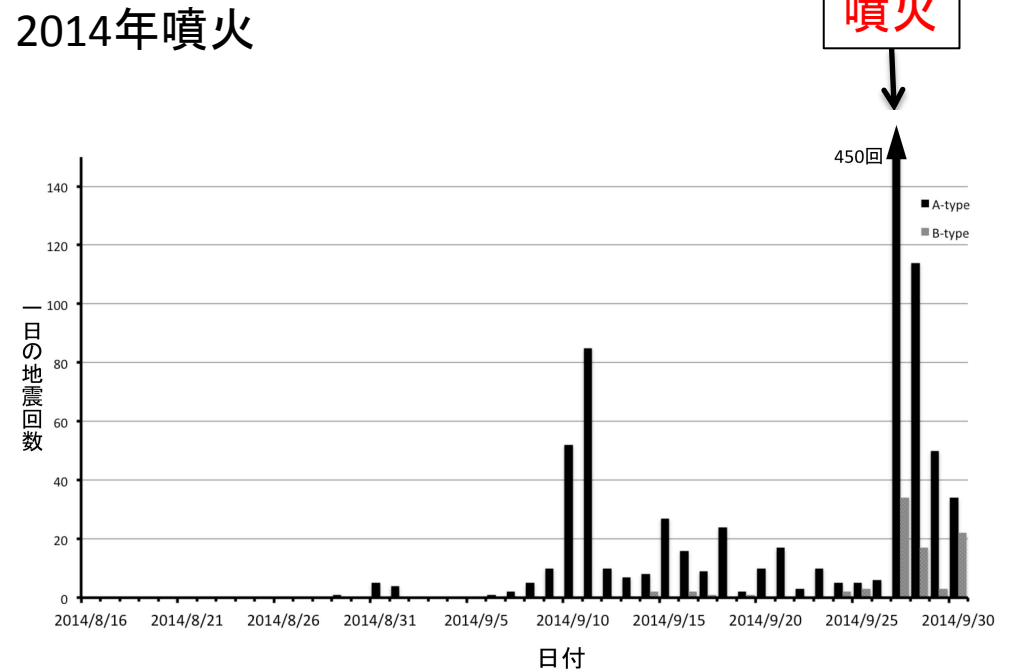
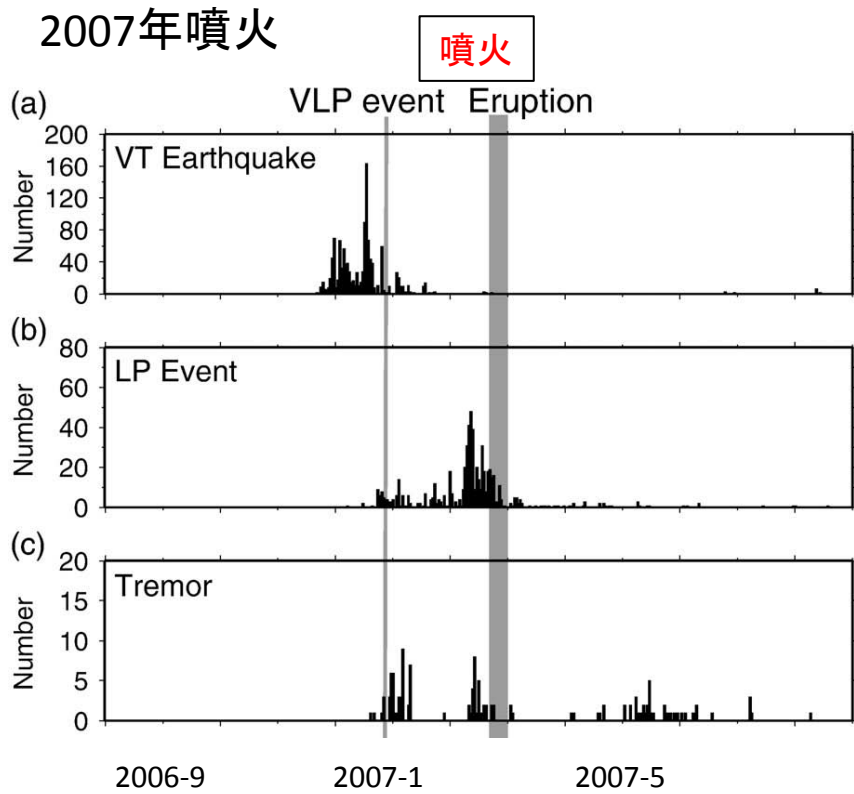
新たな火口列を形成



気象庁資料に加筆

噴気の停止？

2007年噴火と2014年前の地震活動の様子（気象庁）



火山性微動は噴火前には発生していない

- A-type = VT earthquake = P波とS波の明瞭な地震（岩盤の破壊による）
- B-type = LP event = 低周波に卓越した地震（流体関与した破壊）
- Tremor = 火山性微動（流体の移動・震動を表す）

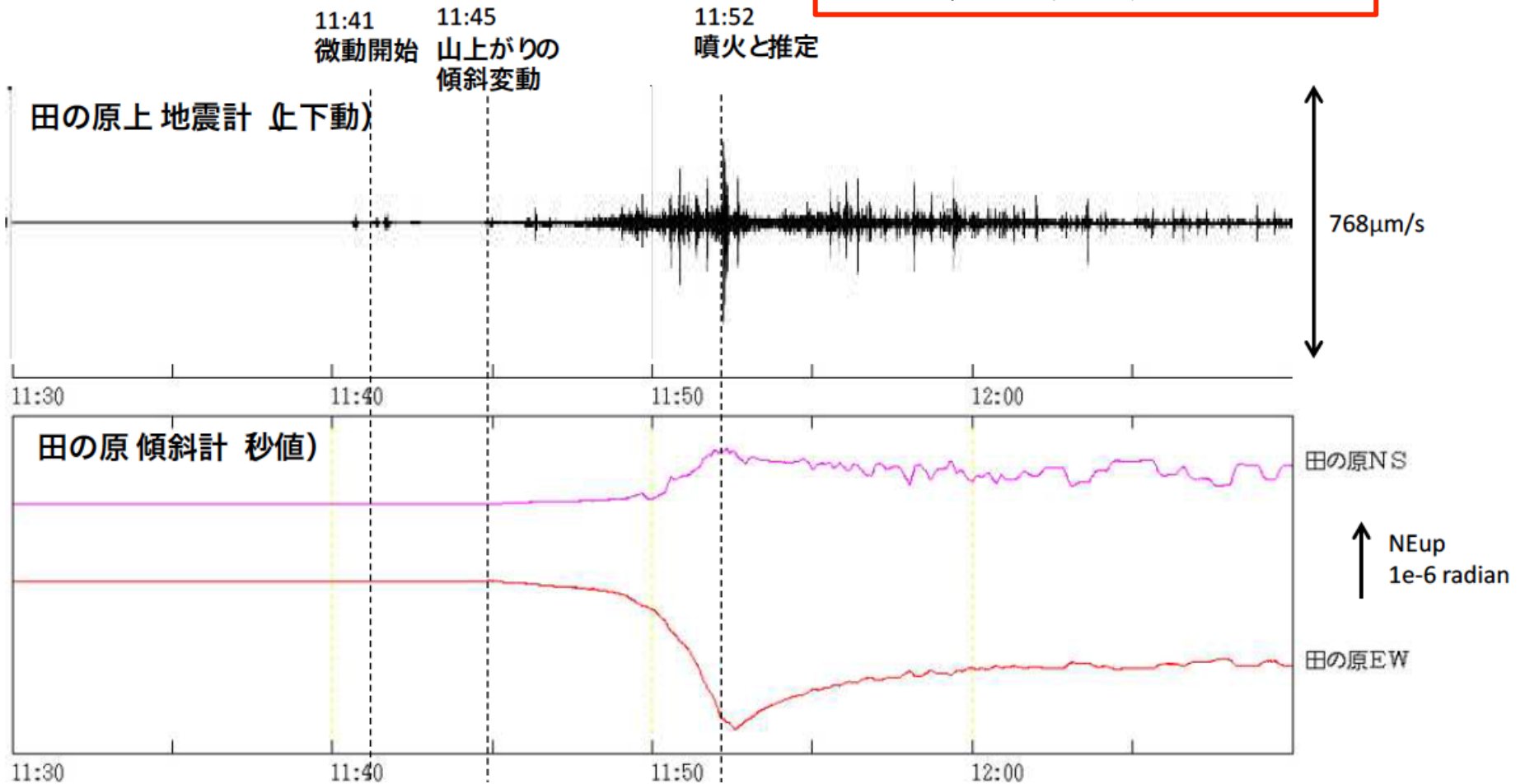
噴火時の震動(火山性微動)および地殻変動(傾斜変動)

地下水の加熱
水蒸気の圧力増加

岩盤を破壊して
水蒸気が上昇

水蒸気が勢いよく噴出
火山灰・噴石の放出

他の火山は、水蒸気噴出に至らない場合も多くある





剣が峰

王滝山頂

八丁ダルミ

一の池

二の池

二の池本館

2014.9.29 photo by Yamaoka